

タイムラプス培養に関する説明書

【タイムラプス培養器について】

従来の胚培養はインキュベーターという専用の培養器によって、温度、pH、ガス濃度など、胚が成長するのに必要な環境を維持しながら行っていましたが、一定の時点で観察の為、都度インキュベーターから取り出すため環境の変化による胚へのストレスが生じてしまうことが懸念されていました。しかし、内蔵カメラと顕微鏡を備えているタイムラプス培養器は、胚をインキュベーターの外に出すことなく、安定した環境に置いたまま、連続的に観察と培養を行え、環境の変化がなく胚へのストレスが軽減されるシステムです。

【効果について】

当院では、2015 年から積極的にタイムラプス培養器の導入を開始し、現在では受精率の向上に必要な技術として、基本的に全ての症例で、タイムラプス培養器を用いた胚の培養と観察を行っています。タイムラプス培養器を使用して培養することによって、胚をインキュベーターの外に出して観察する必要がなくなり胚にストレスを与えることなく培養が行えることに加え、24 時間連続で観察をし続けることにより、膨大なデータを蓄積する為、胚選択の際の判断材料を増やすことができます。さらに、今まで見落とされていた異常な胚なども見つけることが出来るようになり、妊娠に結びつく可能性の高い胚の選択が既存のインキュベーターよりも容易となります。また、取得した画像から胚の質を評価し、胚移植に適した胚の選択を支援するソフトウェアによって、iDAScore[®]注 1 が算出され、移植の際に胚の選択の参考にすることが出来ます。

注 1: Veek 分類及び Gardner 分類によるグレードと胚凍結の胚齢の条件が同一の場合に iDAScore[®]を参考にします。

【対象について】

胚移植を必要とする不妊症

【費用について】

タイムラプス培養加算 : 33,000 円

- ・タイムラプスインキュベーターを用いた培養は先進医療のため、自費診療となります。
- ・お住いの自治体により助成金等が利用できる場合がございます。各自治体の窓口にお問い合わせ下さい。

【その他】

- タイムラプスでわかることはあくまでも胚の発育速度や分割パターンであり、受精卵の染色体異常の有無などはわかりません。
- 培養器の点検、不具合、培養環境の影響で観察撮影ができない場合があります。
- 上記撮影不可の場合や、胚を凍結できなかった場合、iDAScore[®]を算出することは出来ません。
また、その際の返金は致し兼ねます。

何かご不明な点や疑問に思われる事がありましたら、
御遠慮なく担当医もしくはスタッフまでお問い合わせ下さい。